

日本大学
生物資源科学部

校友会会報

2018年(平成30年) 第71号



生物資源科学部 1 号館

《目 次》

学部長挨拶、会長挨拶	2	あすなる会(森林資源科学科)	14
平成30年度総会・講演会・懇親会	3	桜水会(海洋生物資源科学科)	15
平成29年度校友会会計決算書	4	工学会(生物環境工学科)	16
平成30年度校友会会計予算書	5	F T会(食品生命学科)	17
校友会だより(いもづる会、あすなる会)	6	拓友会(国際地域開発学科)	18
校友会だより(桜水会、工学会)	7	応用生物学科校友会	19
平成30年度会長賞 表彰	8	短期大学部湘南校友会	20
富嶽会(生命農学科)	9	支部だより(宮城県支部、山形県支部)	20
紫友会(生命化学科)	10	支部だより(神奈川県支部、高知県支部)	21
角笛会(獣医学科)	11	カッター部	22
満喜葉会(動物資源科学科)	12	校友会役員名簿、編集委員名簿	23
いもづる会(食品ビジネス学科)	13	校友会からのお知らせ	24

「生物資源科学部の現状とその未来に向けて」

日本大学生物資源科学部 学部長

大矢 祐治

多くの教職員の皆様方のご支援・ご支持をいただき、平成27年12月14日に学部長に就任して以来、2年8ヶ月が経過いたしました。この間、微力ながら学部と大学院、併設の鶴ヶ丘高等学校、藤沢高等学校、藤沢中学校、藤沢小学校の更なる発展のために全力で対応してまいりました。現在も、山積する多様な課題の解決に向けて鋭意努力中であります。

本学部の教育・研究環境は農学系他大学と比較してもきわめて充実しておりますが、就任後は更なる施設面の整備を進めてまいりました。すでに新2号館に学習支援センター、学生相談室、保健室を、12号館に就職支援センターを整備いたしました。また、危機管理を目的とした学部施設の点検と整備も進めており、大津波発生時に備え、平成30年5月には下田臨海実験所に津波避難用救命シェルター2基を設置いたしました。シェルター内にはトイレ、非常食などが備え付けられており、大津波が発生した

場合でも、同実験所で実験・実習中の学生・教職員を全員収容できる体制を整えました。

研究面では、学部教職員の皆様のご努力により、国の科学研究費補助金などの外部研究費獲得状況において、本学部はトップクラスの実績を維持しております。また、学部研究の更なる発展を目指し、平成30年度より生物資源科学部長指定次世代支援プロジェクトとして、「学部ブランド創生研究」と「次世代研究者支援事業」をそれぞれスタートいたしました。

就職状況を見ますと、平成29年度は就職希望者の就職率が本学部では97.3%の高水準に達しました。

また、高大連携教育として、日本大学付属高等学校の生物部生徒が研究活動内容を発表する場として、生物資源科学部長杯「生物研究発表会」を平成29年11月に開催したところ、8校から参加していただきました。

今日、18歳人口の減少と入学定員の厳格化、さらに受験者のニーズの



多様化により、大学を取り巻く環境はますます厳しくなっております。今後も受験生から選ばれ続け、卒業生からも本学部で学んで本当に良かったと言われる学部であり続けるために、より質の高い教育・研究の実現を目指し、教職員が一丸となって取り組んでまいります。校友の皆様におかれましては、引き続き母校の発展のために温かいご支援、ご指導を賜りますようお願い申し上げます。

「ご挨拶」

日本大学生物資源科学部校友会 会長

内田 俊太郎

日本大学の歴史は明治22年10月4日日本法律学校創立に始まっています。

明治36年8月19日に日本大学に改組。

昭和4年10月4日40周年記念
昭和14年10月4日50周年記念
昭和24年10月4日60周年記念
昭和34年10月4日「日本大学70周年略史」刊行

昭和34年10月6日創立70周年記念式典挙行（天皇・皇后御臨幸、日大講堂での式典をTVにより全国放映）

平成元年10月4日100周年記念
小田急デパートで日本大学展が1週間にわたり開催。

記念式典・祝賀会が高輪プリンス

ホテルと新高輪プリンスホテルで挙行。

平成31年10月4日いよいよ130年記念式典・祝賀会が帝国ホテルで開催される予定になっています。

私達校友・教職員・在校生が今130年の歴史を迎える中にいる事ができるのも、先人達の母校愛が今日まで続いている事だと思っています。

今後も日本大学発展の為に、校友の皆様のご理解・ご協力をに切にお願い申し上げご挨拶と致します。



平成 30 年度日本大学生物資源科学部校友会通常総会、講演会及び懇親会報告

平成 30 年度は学部校友会創立 70 周年の年に当たり、通常総会、記念講演会及び懇親会を平成 30 年 7 月 14 日(土)に開催しました。

通常総会は、日本大学生物資源科学部 2 号館 1 階 211 講義室において午後 1 時から 86 名の会員にご出席をいただき、議長に「近藤副会長」が選出され、議事録署名人に「満喜葉会の小杉会員」及び「あすなろ会の鍛代会員」が選出され通常総会が開始されました。

まず、報告事項として①平成 29 年度の制度改正及び制定、②平成 30 年度の会長賞受賞者の報告がありました。

続いて審議事項に移り執行部提案の次の 7 議案を審議しました。

1. 分会選出幹事の交代
2. 会則の一部改正(案)
3. 平成 29 年度事業報告
4. 平成 29 年度会計決算報告

5. 平成 29 年度会計決算財産目録

6. 平成 30 年度事業計画(案)

7. 平成 30 年度会計予算(案)

審議結果は 2 の「会則の一部改正(案)」が出席者の 3 分の 2 (58 名)以上の賛成で、他は全て賛成多数で承認されました。

平成 29 年度監査報告は決算報告の後、渡部監査役から「会計決算書及び会務執行状況は適正と認める」と監査報告がありました。

審議終了後、近藤議長は議長を退任、津曲幹事長が閉会宣言し、平成 30 年度通常総会は、午後 2 時 28 分閉会しました。

引き続き記念講演会を同じ 211 講義室において 105 名の校友にご出席いただき、講師に有賀豊彦日本大学名誉教授をお招きして「ネギの原種を求めて・・・モンゴル調査報告・・・」という演目でご講演いただき大変好評を博しました。

懇親会は、午後 4 時 30 分から学部食堂棟 3 階において、長島副会長の開会の辞の後、津曲幹事長の司会進行で開始しました。

来賓として江黒日本大学校友会本部次長を初め他学部校友会の方々並びに学部教員及び会員の方々総勢 149 名にご出席をいただき、校歌斉唱、内田校友会長挨拶、来賓のご挨拶、平成 30 年度会長賞の表彰式、来賓のご紹介と続き、有賀日本大学名誉教授の乾杯の音頭で懇親会は始まりました。

例年どおり、各学科校友会毎にテーブル席を設け旧交を温めていただきました。

約 2 時間の懇親会の時間もあっという間に過ぎ関村副会長の中締め、横川副会長の閉会の辞で午後 6 時 5 分来年の再会を約束し、平成 30 年度懇親会は終了しました。



通常総会



有賀名誉教授の講演会



内田校友会長の挨拶



懇親会

平成29年度 日本大学生物資源科学部校友会 会計決算書

(自 平成29年4月1日 至 平成30年3月31日)

日本大学生物資源科学部校友会

(収入の部)

(金額単位：円)

科 目	29年度予算(A)	29年度決算(B)	差 異 (A - B)	摘 要
1. 前 年 度 繰 越 金	17,139,448	17,139,448	0	現 102,987円、預 17,036,461円(普 4,036,461円、定 13,000,000円)
2. 会 費 収 入	43,248,000	43,917,000	▲ 669,000	
1) 準 会 員 還 付 金 収 入	42,768,000	43,356,000	▲ 588,000	7,226名 × 6千円
2) 正 会 員 還 付 金 収 入	480,000	561,000	▲ 81,000	187名 × 3千円
3. 寄 附 金 収 入	0	0	0	
4. 祝 金 等 収 入	1,200,000	1,172,000	28,000	総会・懇親会の会費及び祝金その他
5. 雑 収 入	100,000	142,696	▲ 42,696	預金利息、幹事会後の懇親会会費
当 年 度 収 入 合 計	44,548,000	45,231,696	▲ 683,696	
収 入 合 計	61,687,448	62,371,144	▲ 683,696	

(支出の部)

(金額単位：円)

科 目	29年度予算(A)	29年度決算(B)	差 異 (A - B)	摘 要
1. 分 会 交 付 金	20,895,000	20,525,000	370,000	初回還付金42,294千円 × 1/2 (大学院分 622千円除く)
2. 経 常 費	12,440,000	10,702,084	1,737,916	
1) 人 件 費	5,000,000	4,620,000	380,000	事務局勤務者に係る給与
2) 本 部 分 担 金	470,000	470,000	0	日本大学校友会本部に対する支部会費及び役員会費
3) 事 務 局 運 営 費	1,200,000	1,241,308	▲ 41,308	コピー機リース料、事務機器購入及び消耗品等購入諸経費
4) 通 信 費	2,500,000	1,910,036	589,964	分会の会報発送費、校友会役員、支部等への資料発送費等
5) 会 合 費	700,000	588,400	111,600	幹事会、執行役員会、各種会合(5委員会除く)に係る諸経費
6) 交 際 費	1,300,000	1,085,798	214,202	分会、都道府県支部、他学部校友会総会等に係る祝金等
7) 旅 費 交 通 費	1,200,000	735,890	464,110	出張旅費、運営補助費(5委員会除く)等
8) 支 払 手 数 料	70,000	50,652	19,348	銀行振込手数料、残高証明書発行手数料
3. 事 業 費	14,620,000	13,442,172	1,177,828	
1) 総 会 費	1,900,000	1,463,958	436,042	総会・懇親会開催に伴う諸経費
2) 広 報 費	2,400,000	2,689,544	▲ 289,544	会報印刷、ホームページ管理費用等
3) 総務委員会運営費	20,000	9,441	10,559	委員会開催経費及び運営補助費
4) 財務委員会運営費	20,000	9,441	10,559	委員会開催経費及び運営補助費
5) 企画委員会運営費	20,000	18,000	2,000	委員会開催経費及び運営補助費
6) 広報委員会運営費	70,000	29,594	40,406	委員会・会報編集委員会開催経費及び運営補助費
7) 組織委員会運営費	70,000	17,798	52,202	委員会開催経費及び運営補助費
8) 記念事業補助費	200,000	200,000	0	分会及び支部の記念式典開催に伴う補助費
9) 準 会 員 対 応 費	9,000,000	8,496,946	503,054	奨学金及び藤桜祭、スポーツフェスタ等への支援
10) スポーツ振興対応費	100,000	150,000	▲ 50,000	日本大学スポーツ振興特別委員会関連費用
11) 箱根駅伝対応費	120,000	0	120,000	
12) 組織拡充計画費	500,000	257,450	242,550	都道府県支部等運営資金の一部補助等
13) 大学創立130周年募金	100,000	100,000	0	日本大学創立130周年記念事業募金(H34年度まで10ヵ年)
14) 歴史展示室開設資金	50,000	0	50,000	
15) ホームカミングデー経費	50,000	0	50,000	
4. 予 備 費	1,000,000	0	1,000,000	
当 年 度 支 出 合 計	48,955,000	44,669,256	4,285,744	
次 年 度 繰 越 金	12,732,448	17,701,888	▲ 4,969,440	現 15,470円、預 17,686,418円(普 4,686,418円、定 13,000,000円)
支 出 合 計	61,687,448	62,371,144	▲ 683,696	

平成30年度 日本大学生物資源科学部校友会 会計予算書

(自 平成30年4月1日 至 平成31年3月31日)

日本大学生物資源科学部校友会

(収入の部)

(金額単位：円)

科 目	30年度予算(案)(A)	29年度予算	29年度決算(B)	差 異 (A - B)	摘 要
1. 前年度繰越金	17,701,888	17,139,448	17,139,448	562,440	
2. 会 費 収 入	42,519,000	43,248,000	43,917,000	▲ 1,398,000	
1) 準会員還付金収入	42,018,000	42,768,000	43,356,000	▲ 1,338,000	7,003名 (5ヶ年平均 7,372名 × 95%) × 6千円
2) 正会員還付金収入	501,000	480,000	561,000	▲ 60,000	167名 (5ヶ年平均) × 3千円
3. 寄 附 金 収 入	0	0	0	0	
4. 祝 金 等 収 入	1,200,000	1,200,000	1,172,000	28,000	総会・懇親会等の会費及び祝金その他
5. 雑 収 入	100,000	100,000	142,696	▲ 42,696	預金利息、幹事会後の懇親会会費収入
当年度収入合計	43,819,000	44,548,000	45,231,696	▲ 1,412,696	
収 入 合 計	61,520,888	61,687,448	62,371,144	▲ 850,256	

(支出の部)

(金額単位：円)

科 目	30年度予算(案)(A)	29年度予算	29年度決算(B)	差 異 (A - B)	摘 要
1. 分 会 交 付 金	20,522,000	20,895,000	20,525,000	▲ 3,000	(初回還付金の5ヶ年平均43,203千円 × 1/2) × 95%
2. 経 常 費	11,940,000	12,440,000	10,702,084	1,237,916	
1) 人 件 費	5,000,000	5,000,000	4,620,000	380,000	事務局勤務者に係る給与
2) 本 部 分 担 金	470,000	470,000	470,000	0	日本大学校友会本部に対する支部会費及び役員会費
3) 事 務 局 運 営 費	1,200,000	1,200,000	1,241,308	▲ 41,308	コピー機リース料、その他事務消耗品等に係る諸経費
4) 通 信 費	2,100,000	2,500,000	1,910,036	189,964	分会への会報発送費の一部支援、関係先への資料発送費等
5) 会 合 費	700,000	700,000	588,400	111,600	幹事会、執行役員会、各種会合(5委員会除く)に係る費用等
6) 交 際 費	1,300,000	1,300,000	1,085,798	214,202	分会、都道府県支部、他学部校友会総会等に係る祝金等
7) 旅 費 交 通 費	1,100,000	1,200,000	735,890	364,110	出張旅費、運営補助費(5委員会除く)等
8) 支 払 手 数 料	70,000	70,000	50,652	19,348	銀行振込手数料、残高証明書発行手数料
3. 事 業 費	14,190,000	14,620,000	13,442,172	747,828	
1) 総 会 費	2,500,000	1,900,000	1,463,958	1,036,042	総会・懇親会、創立70周年記念式典開催経費等
2) 広 報 費	2,400,000	2,400,000	2,689,544	▲ 289,544	会報印刷、ホームページ管理費用等
3) 総務委員会運営費	20,000	20,000	9,441	10,559	委員会開催経費及び運営補助費
4) 財務委員会運営費	20,000	20,000	9,441	10,559	委員会開催経費及び運営補助費
5) 企画委員会運営費	20,000	20,000	18,000	2,000	委員会開催経費及び運営補助費
6) 広報委員会運営費	70,000	70,000	29,594	40,406	委員会、会報編集委員会開催会議及び運営補助費
7) 組織委員会運営費	50,000	70,000	17,798	32,202	委員会開催経費及び運営補助費
8) 記念事業補助費	200,000	200,000	200,000	0	分会及び支部の記念式典開催に伴う補助
9) 準会員対応費	8,000,000	9,000,000	8,496,946	▲ 496,946	学部に対する寄付及び藤桜祭、スポーツフェスタ等への支援
10) スポーツ振興対応費	100,000	100,000	150,000	▲ 50,000	日本大学スポーツ振興関連等費用
11) 箱根駅伝対応費	110,000	120,000	0	110,000	箱根駅伝の応援等に係る費用
12) 組織拡充計画費	500,000	500,000	257,450	242,550	都道府県支部等運営資金の一部補助等
13) 大学創立130周年募金	100,000	100,000	100,000	0	日本大学創立130周年記念事業募金 (H34年度まで10ヵ年)
14) 歴史展示室開設資金	50,000	50,000	0	50,000	学部創立60周年記念展示室の開設準備費用
15) ホームカミングデー経費	50,000	50,000	0	50,000	ホームカミングデー開催準備費用
4. 予 備 費	1,000,000	1,000,000	0	1,000,000	
当年度支出合計	47,652,000	48,955,000	44,669,256	2,982,744	
次年度繰越金	13,868,888	12,732,448	17,701,888	▲ 3,833,000	
支 出 合 計	61,520,888	61,687,448	62,371,144	▲ 850,256	

校友だより

新しい食のソーシャルビジネスモデル

食品経済学科(現:食品ビジネス学科)
平成10年卒業 二瓶 徹

株式会社テロワールアンドトラディションジャパン代表取締役

弊社は、地域において長い間育まれた伝統食品等の製造者等と共同出資で設立した組織であり、生産者が生産だけでなく物流、商社機能を持ち合わせることで、一体的にブランドを管理し、国内外の人々にその価値を直接お伝えする取組をしています。取り扱う地域食品は、シャンパンやコンテチーズのように、原材料と製法、産地が特化されるとともに、作り手の哲学や歴史的伝統性を持ち合わせている商品で、展開方法も個々ではなく、複数アイテムを面で展開する訴求方法をとっています。国内では生協を通じて、海外ではフランスと台湾に輸出しています。特にフランスは2週間に1回の頻度で直行便による空輸を行っているため、現地で購入できない日本産野菜や、賞味期限が短い浅漬けなどの商品の輸出も可能となっています。また、生産者が商社機能を持ち合わせ、かつ輸出手続や輸送のハンドリングも弊社が持っていることから、無駄なコストを省き、現地における販売価格も予想以上に安価となっています。そのため、「鮮度がよく、値段も安い」といった口コミが広がり、現在、フランス以外のEU域内の他国から問い合わせがきています。このように、組織性格上、構築しているビジネスモデルが特異ではありますが、確実に生産者ならびに地域全体にあったかいお金を循環させ、地域課題解決に寄与する取組が実現していることから、このモデルを広く知っていただき、少しでも日本の地域が豊かになればいいなと思っています。



70周年記念講演会で講演する様子



コープデリの誌面



フランスにおける販売の様子

緑の再生を目指して

森林資源科学科
平成29年卒業 武田 那勇太
イビデングリーンテック株式会社

森林資源科学科では森林環境保全学研究室に所属して治山・砂防分野の勉強をしました。卒業研究では八雲演習林内に多数ある山崩れ斜面で侵食される土砂量について研究しました。山崩れによって森林が失われた斜面では大雨の際や毎年の積雪によって多量の土砂が侵食されて、流失していることを知りました。この研究で森林は斜面からの土砂侵食を抑止する重要な役割を果たしていることが実感でき、就職活動では森林に関係する仕事を探しました。

イビデングリーンテック株式会社は主にはのり面緑化と造園を行う会社で、私はのり面緑化部門に所属しています。この部門では、山崩れが発生した斜面や民家裏等のかけ崩れの発生が懸念される急斜面を対象に、斜面を安定させる土工工事と、その斜面に植物を導入して緑を再生させる緑化の仕事をしています。これまでの仕事では、表丹沢にあるアビコ沢流域内で発生した山崩れ斜面を対象にした仕事や横須賀市内に多数ある民家裏の急斜面を対象とした仕事など、10カ所以上の現場で行ってきました。

私の仕事は、現場の作業が計画通りに、

安全に進むように現場全体を管理する施工管理業務と言われます。のり面緑化の仕事は県や市町村が計画し発注する仕事で、発注元の役所との話し合いが非常に重要で、計画通りに、設計図通りに進捗するように気を使っています。また、予定通りに仕事が進むように資材の調達や作業員に指示を出す仕事も重要です。毎朝行う朝礼では、事故が起きないように、今日の作業の中で注意を必要とする作業手法や作業場所などについて情報を提供するKY(危険予知)活動を必ず実施し、安全に仕事が進むようにしています。

作業員の中には40～70代の年配の方々も多く、入社したての頃は戸惑いでしたが、会社の先輩の指導も受けながら、今では作業員の方々ともお酒を呑めるような仲になりました。1つの現場の仕事が計画通りに、予定通りに完成し、そして無事に終わると、とても遣り甲斐を感じます。こののり面は私達が完成させたのり面だと思うと、本当に嬉しくなります。今後も、日本中の荒れた斜面や危険な斜面を安全な緑の斜面に再生したいと思っています。



作業前のKY活動、左の黄色いヘルメットが私



現場事務所内で作業中



住宅地内でののり面緑化工完成記録写真

好きなことで地域おこしを

海洋生物資源科学科

平成 22 年卒業 (平成 24 年大学院修了)

三浦 愛

焼津市地域おこし協力隊

私は焼津市地域おこし協力隊として活動しています。どうぞよろしくお願いします。この「地域おこし協力隊」とは、人口が減少した街に他の地域から移住して、その地域を様々な角度から盛り上げる仕事です。

私は市役所の観光振興課で交流人口の拡大を目指す業務を行っています。具体的な業務内容は既存イベントのブラッシュアップや新規イベントの構築です。日常的な業務の一環として、焼津の隠れた良いものや場所、イベントをより多くの方に知っていただくため、SNS で焼津の情報を発信しています。

焼津は、カツオ・マグロの水揚げ日本一のお魚の街として全国的に知られています。それだけでなく、しっかりと管理された釣り場である「ふいしゅーな」やたくさん船宿さん魅力の一つです。私は、観光として魚釣りがもっと活かせるのではないかと考えており、魚釣りを通して地域貢献を行うことは市長からお墨付きをいただいています。

また、若者の地域交流の場である「やいばる」で釣り部を発足し、その顧問も務めています。直近の目標としては 10 月に大井川港で行われる釣り大会内で釣り教室を行い、その参加者たちにサポーターができるまでに成長してもらうことを考えています。

この他自分でも初心者向けの釣り教室の講師をしています。ここでは、参加されるお客様の良き思い出をつくってもらい、焼津市に再来していただくことを第一に考えてイベントを行っています。それも船長さんや周りの協力あってのことで、それができるのが焼津です。

このように、私の活動は焼津の皆さんに支えられて行えるものです。これからも地域との関わりを厚くすることを心がけて活動して行きたいと思っています。



アコウダイが釣れました!!



主催した初心者船釣り体験教室にて。



焼津市長と地域おこし協力隊委嘱式にて。

三浦 愛ホームページ

<http://ai-love-fish.com/fishuuna/>
「愛 love fish」で検索



勉強ができなくても

生物環境工学科

平成 12 年卒業 東山 哲智

自営 東山農場 (北海道夕張郡長沼町)

私が卒業した年はバブル崩壊後、もっとも就職がきびしい氷河期でした。大卒就職率 57% ぐらいで、就職活動は書類審査で落ちたり、筆記試験で落ちたりと、面接までたどり着けない状態でした。そんな 4 年の夏、「今すぐ研究室へこい。」と電話があり、行ってみると農業機械会社の人事の人と 10 分程度の会話をし、数日後、面接を受けに行き、あれよあれよと採用との連絡を頂きました。(卒業ができるかあやしい段階ですが。)

この会社で私は 8 年営業として、農家や農協などに外国製トラクターや農機具、コンバインなどを販売しておりました。このときの農家の人との出会いが自分で家業である農業をする決め手になったと思います。当時はまだ農

業はきつい、きたない、かっこわるい等 3 K 産業。いや、稼げない、結婚できないなど入れたら 6 K 産業ともいわれているそんな時代に、私の出会った農家の人には自分の仕事に誇りを持ち、何千万もする機械をどんどん買い、そこに暮らす地域の人たちは農家の人を尊敬すらしていました。

「カッコイイ俺も実家に戻って農業をしよう!」30 歳で就農を決意しました。農業は甘くはないが、頑張ったら作物が評価してくれ、手を抜くとすぐに収入が減る。栽培知識だけでない、機械、土木、建築、経済など幅広い知識が必要とされるけど、すごくやりがいがある。そして、なんとって家族との時間が自由に作れる。朝昼晩ご飯と一緒に食べれるし、転勤もないしね(笑)



自社農場を背に



農作業の一コマ



家族と昼ご飯

平成30年度会長賞受賞者の紹介



左から内田俊太郎校友会会長、植松 恒美氏

平成30年度の会長賞の表彰式は、平成30年7月14日開催しました懇親会の席上で行いました。

今年度は、山形県支部長から推薦がありました植松恒美前支部長に対し内田学部長から表彰状と副賞が授与されました。

植松 恒美氏

昭和44年3月に本学大学院農芸化学科を修了され、落花生の研究で博士号を取得されています。

平成18年度から日本大学生物資源科学部山形県支部の副支部長を2期6年務められ、その後、平成29年度までの2期6年間支部長を務められ、計12年間に亘り今日の山形県支部の発展に大変貢献されました。



懇親会名簿



記念講演会のポスター

富嶽会

生命農学科

連絡先：花の科学研究室

0466-84-2906 事務局長 窪田 聡

E-mail: skubota@brs.nihon-u.ac.jp

平成 30 年度富嶽会総会の開催

平成 30 年 5 月 12 日(土) に 2 号館 2 階 221 講義室において富嶽会総会が開催され、長島武志会長の挨拶の後、平成 29 年度事業報告・決算報告・監査報告および平成 30 年度事業計画案・予算案等が審議され了承されました。総会終了後の講演会では、花の科学研究室の窪田聡教授による「日本大学発 根域環境制御装置(N.RECS)による園芸作物の成長制御」が講演され、多くの会員・準会員の参加や会場からの活発な質疑もあり、充実した会となりました。続く懇親会でも集まった新旧の会員、学科教員そして学生らで親睦を深めることが出来ました。その折、臨席下さった農学交友会 3 代目会長の西鳥羽曙氏(農学科 4 期生)より挨拶を頂き、その健勝なお姿も含めて会場が大いに沸きました。

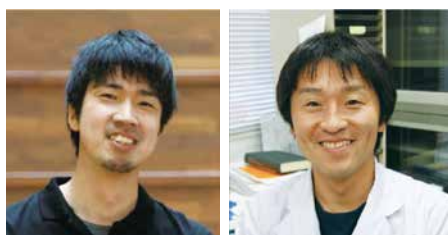
活動経過報告

生命農学科では、この 4 月より 131 名の新入生(準会員)を迎え、例年通りにスポーツフェスタ用の T シャツを富嶽会より全員に配布しました。今年はワインレッドの生地に、新入学生が考えたデザインが印刷された洒落たものです。もちろん、肩の部分には富嶽会のロゴマークが入っています。スポーツフェスタでの企画リレーで一位になるなど、お揃いの T シャツを身に着け、懸命に競技や応援に打ち込むことで学年の結束力を強めることが出来ました。



生命農学科の近況

この 4 月より専任講師に昇格した教員が 2 名いますので報告します。まずは作物科学研究室の肥後昌男先生で、研究テーマは「食糧生産におけるリン消費削減に関する研究」です。そして園芸科学研究室の上吉原裕亮先生で、研究テーマは「果実における芳香成分の生合成・代謝機構の解明」です。いずれも「生命×農学」の先端科学を深めている、若手の教員です。学科を引っ張っていくことも含め、今後ますますのご活躍が期待されます。



肥後 昌男 専任講師 上吉原 裕亮 専任講師

この間、生命農学科の 3 名の教員が学会賞を受賞しました。まず、遺伝育種科学研究室の山田昌彦教授が「欧州ブドウの食味を持ち、栽培容易な大粒ブドウ品種シャインマスカットの育成」の業績で日本育種学会賞を受賞されました(2018 年 3 月)。なんと山田先生は、シャインマスカット(大粒な黄緑色で種無しでしかも皮ごと食べられるブドウ)の産みの親なのです。降雨の多い日本でも栽培できるブドウ品種として、米国ブドウと欧州ブドウの交配でシャインマスカットを育成したそうです。また、応用昆虫科学研究室の岩野秀俊特任教授が「家蚕微粒子病における感染発現と病原性の遺伝的多様性の解明に関する研究」の業績で日本蚕糸学会賞を受賞されました(2018 年 3 月)。岩野先生は、カイコ微粒子病の原因微生物である微胞子虫(原虫)について、昆虫体内での感染増殖のメカニズムを解明して、シルク・サイエンスに大きな足跡を残したのです。そして農業生産技術研究室の百瀬博文専任講師が農業情報学会の貢献賞を受賞されました(2018 年 5 月)。百瀬先生が

長年取り組んできた農業情報に関わる研究(除草ロボットの雑草識別法、園芸植物の非破壊栄養診断法の開発等)が評価されたと言えます。

いずれも本学科での研究活動が社会的に評価されたものであり、卒業生や学生たちの励みにもなります。受賞されたお三方の今後の更なるご活躍を祈っております。



山田昌彦教授と受賞メダル



岩野秀俊特任教授と受賞メダル



百瀬博文専任講師と受賞トロフィー

訃報

2018 年 1 月 28 日、植物病理学研究室の篠原正行 元教授(1999 年度まで植物資源科学科で教鞭を振るわれていました)がご逝去されました。心よりご冥福をお祈り申し上げます。

富嶽会事務局より

本年より事務局長に窪田聡教授、庶務理事に大澤啓志教授、庶務に上吉原裕亮専任講師が就任いたしました。今後ともよろしくお願い申し上げます。富嶽会 HP そして学科 facebook も是非ご覧ください。

[https://www.facebook.com/](https://www.facebook.com/AGricultural.Bioscience.NU/)

[AGricultural.Bioscience.NU/](https://www.facebook.com/AGricultural.Bioscience.NU/)

(大澤 啓志)

紫友会

生命化学科

連絡先：発酵化学研究室

0466-84-3945 事務局長 荻原 淳

E-mail: j-ogihara@brs.nihon-u.ac.jp

平成 30 年度 紫友会

【理事会開催】

定例の理事会は本年 6 月 30 日(土) 14 時より本館 43 講義室で開催されました。高橋会長の挨拶から始まり、平成 29 年度事業・決算報告が事務局よりなされ、承認されました。また、監事より会計監査結果についての報告がなされ、承認されました。次に平成 30 年度の事業計画・予算案等が審議され、満場一致で承認されました。

活動経過報告

【就活支援セミナー開催】

平成 29 年 11 月 25 日(土) 生命化学科 3 年次学生を対象に就活支援セミナーを開催しました。本セミナーは近年、本学科を卒業し、各業種で活躍の紫友会会員の先輩方 12 名の各人を取囲む座談会形式で行われました。

【フレッシュマンセミナー開催】

平成 30 年 4 月 21 日(土) 生命化学科新入学生を対象にフレッシュマンセミナーを開催しました。本セミナーも同様に、本学科を卒業した先輩方 12 名をお呼びして座談会形式で行いました。両セミナーとも学生の双方向的な意見交換の場として盛会のうち終了しました。

【平成 30 年度 第 25 回紫友会奨学生決定】

理事会の同日に奨学生選考委員会より厳正に選考された以下 9 名の奨学生が決定しました。

2 年次；遠藤 美樹、平林 風歌、本多 航

3 年次；谷口 琴音、平野 元春、篠田 航

4 年次；児山 有希、日向 将一、加納 結衣

【平成 30 年度 第 5 回紫友会特別賞】

同日の紫友会特別賞選考委員会により厳正に選考された以下 2 名が平成 30 年度第 5 回紫友会特別賞受賞者として承認されました。

- 1) 濱田 彩(博士前期課程 2 年生)
(受賞理由) 2018 年アメリカ油化学会学生ポスター賞(最優秀賞)を受賞
- 2) 池田 彩菜(博士前期課程 2 年生)
(受賞理由) 平成 30 年 第 72 回日本栄養・食糧学会大会学生優秀発表賞を受賞

生命化学科の近況

【在校生】

平成 29 年 10 月 7 日に紫友会杯争奪研究室対抗ソフトボール大会が開催されました。大会は栄養生理化学研究室・環境微生物学研究室の同点優勝となりました。表彰式・懇親会には紫友会役員の皆様にもご同席いただき、懇親を深めることが出来ました。平成 30 年 3 月 25 日に本学部アリーナで平成 29 年度学位伝達式が開催され、生命化学科卒業生 153 名が社会へと元気よく羽ばたきました。同年 4 月から生命化学科 1 年次学生 133 名(男子 69 名、女子 64 名)を迎え入れ、現在、当学科には計 540 名(男子 287 名、女子 253 名)の学生が在籍しております。

【スポーツフェスタ】

学部スポーツフェスタ(運動会)が平成 30 年 5 月 19 日に開催され、当学科の 1 年生が晴天の中、奮闘してくれました。学科対抗競技では、皆が団結し、本学科としては久しぶりの上位入賞(3 位)となりました。日頃着用している実験着と異なり、T シャツを着用し、競技に汗することで同朋意識を高めるよい機会になりました。

【学科教員動向】

平成 30 年 3 月に荒瀧幸和実さま(実習助手)がご退職されました。荒瀧さまは本学科卒業後、実習助手として着任し 4 年間、学科の発展のために献身していただきました。今後のご健康とご多幸をお祈りいたします。



本年度のスポーツフェスタは久しぶりの上位入賞(3 位)! 綱引きの勇姿

平成 30 年 4 月 1 日付けで小林孝行先生(土壌圏科学研究室)、平野貴子先生(生物化学研究室)の両名が専任講師へ昇格されました。両先生の益々のご活躍を期待しております。また、同日付けで柴木紗織実習助手が着任されました。これにより、学科全体では教員 18 名(教授 7 名、准教授 2 名、専任講師 5 名、助教 2 名、助手 2 名)、実習助手 2 名、合計 20 名の布陣で教育研究活動にあたっております。



柴木紗織実習助手(生命化学科卒)

紫友会事務局より

【総会開催のお知らせ】

平成 30 年 12 月 1 日(土曜日)、日本大学生物資源科学部キャンパス内にて紫友会総会を開催する予定です。詳細についてはホームページよりご確認ください。多くの卒業生の皆様のご参加をお待ちしております。

今後とも皆様のご支援を御願い申し上げます。紫友会会員の皆様の近況や同期会等のご様子を事務局まで御知らせ下さい。紫友会のホームページは <http://www.nihon-u-shiyukai.jp> からご覧いただけます。また、インターネット上で「紫友会」と検索してください。同ウェブ上で連絡先等変更の手続きができますのでご活用ください。

(赤尾 真)

角 笛 会

獣医学科

連絡先：獣医病態生理学研究室
0466-84-3633 事務局長 鯉江 洋
E-mail: koie.hiroshi@nihon-u.ac.jp

平成 30 年度 日本大学獣医学会・ 角笛会合同大会の開催

平成 30 年 6 月 30 日(土)、日本大学生物資源科学部 1 号館 121 講義室において平成 30 年度角笛会総会および第 56 回日本大学獣医学会が開催されました。日本大学獣医学会は渋谷久担当学会長のもと、10 題の一般講演と獣医学科教員 5 名(近藤広孝先生、亘敏広先生、丸山治彦先生、中山智宏先生、浅野和之先生)による教育講演「犬と猫の腫瘍への挑戦」が行われました。会員 55 名、学生・ANMEC 研修医 55 名、その他 8 名と計 118 名が参加し、内容の充実した学会となりました。

角笛会総会では中川秀樹会長(昭和 40 年卒)から挨拶があり、遠矢幸伸議長の進行で審議が行われました。総会に先立ち、諸先生方のご計報に際し、黙祷が行われました。平成 29 年度事業活動および会計収支報告、平成 30 年度事業活動および予算案が審議され、満場一致で承認されました。角笛会の発展に貢献した角笛会功労者として、高浦芳一氏(千葉県)、鍋谷政広氏(新潟県)、梶原昌一氏(岡山県)、竹内潔氏(高知県)の 4 名に賞状と記念品が授与されました。ANMEC 研究助成金は、関口尚希氏(研究課題:犬の脊髄損傷症例に対する鼻粘膜由来嗅神経鞘細胞移植による有用性と安全性の検討)が授賞しました。また役員改選があり、鳥海弘氏(昭和 50 年卒)が会長として承認されました。総会後、食堂棟 3 階にて開催された情報交換会には、他学科同僚校友会来賓、角笛会校友、大学教員、学部生(準会員)など多数の参加者が集りました。森友忠昭獣医学科主任(昭和 61 年卒)の乾杯の音頭で開幕し、にぎやかに談笑するうちに時間が流れ、盛会裏に終了しました。



日本大学獣医学会(獣医学科学生による一般講演)



鳥海 弘 新会長

平成 30 年度 角笛会主催 動物病院就職説明会の開催

平成 30 年 6 月 30 日(土)(平成 30 年度日本大学獣医学会・角笛会合同大会同日)、獣医学科学生(準会員)のための動物病院就職説明会が開催されました。趣旨・目的に賛同し参加した動物病院 40 施設による個別相談ブースと久野知氏((株)HIPPOS:平成 20 年卒)による特別講演で構成され、学生 162 名(延べ人数)が参加しました。就職活動だけでなく低学年の動物病院見学や実習などさまざまな情報交換が行われ、動物病院、学生の双方から有意義なイベントとなったと好評を得ました。



動物病院就職説明会(久野知氏による特別講演)

第 16 回日本大学医療系同窓・ 校友学術講演会の開催

第 16 回日本大学医療系同窓・校友(医学部同窓会、歯学部同窓会、松戸歯学部同窓会、薬学部校友会、獣医学科校友会・角笛会)学術講演会は、平成 29 年 10 月 7 日(土)薬学部校友会担当で「国際協力」をテーマにシンポジウム形式で開催され、参加者との意見交換が活発に行われました。角笛会からは富永秀雄氏(昭和 45 年卒)が「農民の心に火を灯す国際協力」と題して発表しました。本年度の第 17 回講演会は 9 月 29 日(土)医学部同窓会担当で「再生医療」をテーマに開催されます。角笛会からは枝村一弥先生(平成 11 年卒)が「獣医学領域における再生医療の現状と臨床指針」と題して発表する予定です。



第16回日本大学医療系同窓・校友学術講演会

人事

本年 3 月をもって大場茂夫特任教授(獣医歯科学研究室)、佐藤常男特任教授(獣医病理学研究室)、中西照幸特任教授(魚病学研究室/比較免疫学研究室)、滝山直昭専任講師(獣医内科学研究室)、都築亜美実習助手(学科事務室)が退職されました。本年 4 月に山崎純教授(獣医薬理学研究室)、岡西広樹専任講師(獣医内科学研究室)、森田真衣実習助手(学科事務室)が採用されました。壁谷英則先生(新設:獣医食品衛生学研究室)が教授に、安井禎先生(獣医解剖学研究室)、小熊圭祐先生(獣医伝染病学研究室)が准教授に、佐藤真伍先生(獣医公衆衛生学研究室)が専任講師に昇格されました。また、田崎成美実習助手が家畜病院から学科事務室に、新堀千里実習助手(学科事務室)と植松愛梨沙実習助手(家畜病院)が他学科に異動いたしました。

(岡林 堅)

満喜葉会

動物資源科学科

連絡先：畜産マーケティング研究室
0466-84-3648 事務局長 小泉 聖一
E-mail: koizumi.seiichi@nihon-u.ac.jp

平成30年度満喜葉会 —活動経過報告—

【役員会の開催】

定例の役員会は、本年5月19日（土）午後3時より、2号館2階第1会議室で開催されました。役員会は山本捷会長の挨拶から始まり、平成29年度事業・決算報告が事務局よりなされ承認されました。また、監事より会計監査結果についての報告がなされ承認されました。次に平成30年度の事業計画・予算案が事務局より提案され承認されました。

【スポーツフェスタ、新入生歓迎会の開催】

上記役員会の後、午後5時より本館ガレリア階銀座スエヒロにおいて新入生歓迎会が学科・満喜葉会の協賛、学術研究部の協力のもと行われました。



新入生歓迎会

新入生歓迎会と同日に行われた「スポーツフェスタ2018」は、天候にも恵まれ、昨年同様、全競技がグラウンドで執り行われました。例年通り、満喜葉会からスポーツフェスタ時に着用するTシャツを全新生、教員に進呈しています。「Navy blue」の生地学科略称“ASR (Animal Science and Resources)”のロゴを配したTシャツをユニフォームとして着用して健闘しましたが、12学科中4位の成績でした。

学科の近況

【卒業生および新入生】

本年3月25日、148名が動物資源科学科を卒業し、新たに満喜葉会正会員の仲間入りをしました。また、本年4月には143名の新入生を迎え、在籍者は4学年合計で581名（6月1日現在）となっています。本年度の1年生の男女比は、男子56名（38.9%）、女子88名（61.1%：過年度学生を含む）、全学年では男子39.4%、女子60.6%となり、食品ビジネス学科に次ぐ学部内で2番目に在籍女子学生比率が高い学科となっています（女子学生比率が在籍者の50%を超えているのは当学科の他に獣医学科、食品ビジネス学科、食品生命学科の3学科）。

【学科人事について】

平成30年3月末日をもって、村田浩一教授は定年のため退職されました。村田先生は、特任教授（任期1年）として本年4月より再び任用されています。

平成24年4月より実習助手として6年間に亘って学科事務等にご尽力戴いた須藤千絵さん（平成24年3月本学科卒業）は、本年3月31日付けで退職されました。現在は、本学での6年間の経験を生かし、某女子大学の事務職員として勤務されています。後任の実習助手として、同年4月1日付で深谷有紀さん（旧姓：原田、平成26年3月本学科卒業）が採用されました。学科事務の他、学生実験や演

習などを補助して頂きます。



新任の深谷有紀さん（左）と神原サキさん

本年4月1日付で、野生動物学研究室の岩佐真宏准教授が教授に、伴侶動物学研究室の福澤めぐみ専任講師が准教授に昇格されました。

本年度の研究室の配置と所属教員（18名）と特任教授（2名）は以下の通りです。

動物組織機能学

（山室 裕 教授、園田 豊 専任講師、相澤 修 助教）

伴侶動物学

（甲斐 藏 教授、福澤めぐみ 准教授）

ミルク科学

（増田哲也 教授、川井 泰 准教授）

動物育種学

（長嶺慶隆 教授）

動物生殖学

（大西 彰 教授、三角浩司 准教授）

野生動物学

（岩佐真宏 教授）

草地学

（佐伯真魚 教授）

飼養学

（梶川 博 教授、浅野早苗 助教）

畜産経営学

（小林信一 教授）

畜産マーケティング

（小泉聖一 教授）

学科事務室

（須藤千絵 実習助手、神原サキ 実習助手、）

特任教授

（丹羽美次、村田浩一）

（山室 裕）

いもづる会

食品ビジネス学科

連絡先：食品産業論研究室

0466-84-3420 事務局長 大石 敦志

E-mail: oishi@brs.nihon-u.ac.jp

幹事会（総会）・70 周年記念事業 （講演会・祝賀会）を開催

6月2日（土）、学科創設 75 周年・校友会創立 70 周年記念講演会・祝賀会および幹事会が日本大学生物資源科学部で開催されました。記念講演会は、第 52 期の二瓶徹氏（テロワール・アンド・トラディション・ジャパン代表）による「国内外における新しい食のソーシャルビジネスモデル ～自らの価値を再価値化することからはじめよう～」で、二瓶氏が現在手がけている地域解決型ビジネスモデルを題材に食の新しい価値創造についてご講演していただきました。祝賀会は、食堂棟 3 階で、200 名を超える参加者の下、現役学生の稲垣優大さんが所属しているお笑いトリオ「ルービック」の漫才やヴォーカルに前田真理子さんを加えたスイングレス・ジャズオーケストラ（学部 OB が中心となって設立した社会人ジャズバンドで、当会の高橋巖先生も所属しています）の公演、豪華景品が当たる大抽選会の余興もあり、OB 教員、現役教員に、会員、準会員が加わったカオス的な雰囲気の中、懐かしい思い出話や今の話題などで大いに盛り上がった会となりました。当日の記念行事の写真を加えた「いもづる会 70 周年記念誌」が発刊され、祝賀会参加者にお送りする予定ですので、楽しみにしててください。また幹事会では昨年度の活動報告・会計報告と、本年度の活動計画・予算案が承認されるとともに、「70 周年記念支援」を行うことなどが決定しました。



記念品のフリクションペン

食品ビジネス学科の近況

【新入生】

3月25日に152名の学生が卒業し、本年度は136名の新入生を迎えました。4月22日には新入生研修会を開催し、基礎演習班ごとにキャンパスを探索し、オリジナルのマップを作成・発表したり、上級生と一緒にランチをしたり、学生間での親睦を大いに深めました。5月15日には学部主催のスポーツフェスタが開催され、投票で一位になったデザインのお揃いのポロシャツ



新入生研修会



スポーツフェスタ



スポーツフェスタ優勝

を着て、学科一丸となって奮闘し、綱引きで4年連続1位、ムカデ競走2位、企画リレー、本気リレーとも3位になるなどそれぞれの種目で好成績を収めました。結果は2位に大差をつけ、みごと総合優勝をいたしました。6月20日には、横川会長を招き優勝祝賀会を開催しました。これら一連の行事により新入生間の結束力が一層高まり、今後の成長が楽しみです。

【教職員の動き】

昨年度で44年間学科に奉職していた下渡敏治先生がご退職し、その後任として本年4月から阿久根優子先生が着任されました。また若林素子先生と大石敦志が教授に、片上敏喜先生と佐藤奨平先生が専任講師に、清水友里先生が助教に、それぞれ昇格されました。



下渡先生送別会

【会員への各種案内方法の変更(お願い)】

既にご案内の通り、会報や各種案内の従来の紙媒体での案内方法から、ホームページ等のネット媒体での案内方法に移行しております。

いもづる会のホームページやFacebookをチェックしてください。（大石 敦志）



祝賀会の記念写真

あすなろ会

森林資源科学科

連絡先：森林植物・微生物学研究室
0466-84-3666 事務局長 鍛代 邦夫
E-mail: kitai@brs.nihon-u.ac.jp

平成 29 年度あすなろ会 活動報告

【役員会】

平成 29 年 10 月に役員会を湘南キャンパス 10 号館で開催いたしました。当会では平成 28 年度の事業報告、決算報告、監査報告、及び平成 29 年度事業計画(案)、予算(案)について審議され、承認されました。

【同期会の開催】

昭和 43 年に卒業した第 17 期の同期会が平成 30 年 5 月 16 日～17 日に、兵庫県の有馬温泉で開催されました。以下、この会に参加された今井三千穂氏によりますと、「29 名の卒業生中 13 名が出席しました。会に先立ち、物故者 2 名の写真をテーブルに掲げ、同期の高橋清憲氏がお経を唱え、全員でご冥福をお祈りしました。次いで 50 年ぶりの再会を果たした各自の人生行路を語ってもらい青春時代の気分になり、楽しい一時を過ごすことができました。」とのことでした。

第 23 期の同期会が北海道津別町で 6 月 13 日に開催されました。この期は毎年東京近郊で同期会を開催されてきましたが、地方在住の卒業生の参加者を増やしたいとの提案から、本年度は津別町に勤務していた同期生を訪問する形で同期会が実施されました。参加された深津晃氏によりますと、参加者は同期生 10 名とご家族 4 名で、美味しい料理と酒を酌み交わし、楽しい一時と昔話に花を咲かせたそうです。また、来年は宮崎に同窓会の場所が決定し、参加者をなるべく多くするため、九州在住者の参加は元より、連絡網の拡大に取り組み、23 期同期会の再開に胸を膨らませているとのことでした。



第 17 期 50 年目の同期会

学科の近況

【卒業生による職業情報交換会】

毎年実施している本会は、森林・林業関連の仕事に従事している卒業生にお越しいただき、これから就職活動を迎える 3 年生を対象に仕事内容や就職活動の経験等をお話してもらい、学生たちの就職活動の第一歩を支援してもらうための会です。今回は平成 29 年 12 月 6 日に開催し、業種別の参加者は建材:6 名、造園・花卉:4 名、建築・建設:5 名、建設系コンサル:6 名、公園管理:2 名、観光:3 名、公務員:6 名、その他:5 名、合計 37 名の卒業生にご参加いただきました。本会では、それぞれの卒業生用のブースを設け、3 年生は自分の興味のある業種・企業で仕事をしている卒業生のブースに行き情報交換を行っています。夕方からは、卒業生、学生、さらに教職員も交えて懇親の場を設け、打ち解けた会場でより深い情報交換を行っていただきました。学生にとって、就職活動は大変難しいものです。この会では卒業生が務めている企業や業界について生きた声を聴くことができるので、大変有意義な会になっていると感じております。ご参加いただいた卒業生の皆さま、本当にありがとうございます。なお、この会の運営にあたり、あすなろ会からご支援を頂戴しております。



卒業生による職業情報交換会の様子

【卒業生・新入生】

本年 3 月 25 日、152 名(男子 102 名、女子 50 名)が本学科を卒業しました。毎年、研究室で最も成績の優秀な卒業生に「あすなろ会、会長賞」授与しています。今年も 9 名に表彰状と記念品が授与されました。また、生物資源科学部で最も成績の優秀であった学生に対して贈られる学業部門学長賞に、森林資源科学科の両川光流君が選ばれました。

4 月には 120 名(男子 96 名、女子 24 名)の新入生を迎え新学期が始まりました。新入生に対しては、早速 4 月から必修の森林資源科学実習を実施しました。この実習で



卒業式で恒例の万歳三唱

は学科の基本的な学習・研究内容を知ってもらうために、17 名の先生方それぞれの専門分野が理解できる演習林や自然公園、博物館、関連会社等に、1 年生 15 名ずつを連れて行き、実習をさせます。写真は木材工場で実習している様子です。6 月には毎年実施している 1 年生全員参加の森林資源科学実習を日本大学軽井沢研修所で行いました。浅間山を囲む森林の中で森林資源科学の第一歩を元気にスタートしました。



1 年生の森林資源科学実習(木材工場での実習)

【学科の人事】

本年 3 月、森林利用学研究室の吉岡拓如准教授が転出されました。吉岡先生には平成 17 年に就任されてから森林土壌学、森林測量学等の授業や、森林バイオマスの有効利用に関する研究等を通して、多くの学生を育てていただきました。森林資源科学科事務室の八神早季さんには平成 25 年から 5 年間にわたり、学科の仕事を支えていただきましたが、3 月末日で退職されました。後任には森林動物学研究室で修士課程を修了した橋詰茜さんが実習助手として就任しました。

あすなろ会ホームページ

あすなろ会ホームページが下記のアドレスに開設されています。宮島会長の挨拶、役員人事、会則、行事予定等が掲載されています。あすなろ会 60 周年記念行事として作成した「あすなろ会 60 年のあゆみ」もご覧になることができます。是非、このホームページをご活用いただきたいと思います。

<http://hp.brs.nihon-u.ac.jp/~asunaro/index.html>

会員の皆様からのお便りをお待ちしております。

(阿部 和時)

桜水会

海洋生物資源科学科

連絡先：生物機能化学研究室

0466-84-3682 事務局長 森 司

E-mail: mori.tsukasa@nihon-u.ac.jp

平成30年度桜水会総会・懇親会を開催

平成30年6月9日(土)14:30より湘南キャンパス10号館において「平成30年度桜水会総会・代議員会・理事会」が、16:00より食堂棟3階NUBSホールにおいて「10年毎の同窓会・懇親会」が開催されました。「総会・代議員会・理事会」では、平成29年度の事業報告、決算報告、監査報告、平成30年度の事業計画案、予算案などが審議され、すべて承認されました。この中で、今後、2021年3月末までに会報をオンライン化することが再確認されました。

「10年毎の同窓会・懇親会」は、卒業後2年目(平成28年卒、65期)、10年目(同20年卒、57期)、20年目(同9年卒、47期)、30年目(昭和63年卒、37期)、40年目(同53年卒、27期)ならびに70歳以上の卒業生会員を中心に、学科教員および準会員である在学生も数十名参加して実施されました。

学科・準会員への支援

今年度の前期には、「海洋生物資源科学概論」(1年次必修科目)の中で、将来就いてみたい職業を見出す職業研究の一環として、活躍する本学科卒業生の体験談などを講演していただきました。6月26日に小野ゆかり氏(64期、三洋テクノマリン(株))、7月10日に石崎逸子氏(52期、アルバック・ファイ(株))と松本将史氏(50期、元新潟県立海洋高校、現(株)能水商店)、7月17日に金子直博氏(47期、(株)本田技術研究所)と増田真之介氏(64期、新潟県立海洋高校)、7月24日に平工顕太郎氏(55期、ゆいのふね代表)の計6名の卒業生に演者としてお越しいただきました。また、「特別講義」(3年次選択科目)では、本学科海洋生物資源応用コース(JABEE対応コース)の外部評価委員に委嘱されている尾崎之紀氏(37期、味の兵藤(株))、市橋理氏(37期、アジア航測(株))、宮下一明氏(38期、(株)東京久栄)および長谷川勝治氏(20期、元焼津水産

高校校長)の4名の会員に、技術者教育の一環として講演していただきました。このほか、1年次の必修科目である「海洋基礎実習Ⅰ」への支援、スポーツフェスタ(2年連続準優勝)の学科Tシャツ作製、学科広報用パンフレットの作成を支援しました。今後、今年度中に在学生の学会参加費等の補助や卒業記念品の贈呈、卒論コンペ(塚本賞)の支援等を実施する予定です。

学科の近況

【新入生・在学生】

本年4月に141名(男子91名、女子50名)の新入生を迎え、現在605名(男子409名、女子196名)の学部生が在籍しています。また、4専攻に跨る大学院には、博士前期課程12名(男子9名、女子3名)、および博士後期課程4名(男子3名、女子1名)が在籍しています。現在の本学科カリキュラムも5年目を迎え、そろそろ新たなカリキュラムの編成を考える時期になりました。4月21日(土)に新入生オリエンテーション(「海洋基礎実習Ⅰ」の一部)として、鵜沼海岸で地曳網を行い、その後新江ノ島水族館を見学しました。5～6月に下田臨海実験所で海洋基礎実習Ⅰを実施し、本学科の基礎を体験しました。また、5月19日に開催されたスポーツフェスタでは、前年に引き続き、準優勝に輝きました。



鵜沼海岸でのオリエンテーション(地曳網)



下田臨海実験所での海洋基礎実習Ⅰ(釣った魚の種同定)



スポーツフェスタの綱引き



2018年2月に開催された塚本賞(卒論コンペ)の会場



塚本賞の表彰式

【学科教員の異動】

本年3月末をもって、杉田治男教授および廣海十朗教授が定年退職され、本年4月より特任教授に着任されました。また、本年4月より荒功一准教授が教授に昇格されました。この他、今年度は、中井静子助教および阿部江子実習助手が出産のため産休を取得しています。産休中の阿部実習助手に代わって菊池真理子実習助手が学科事務室に勤務しています。

桜水会事務局より

桜水会会員の皆様の近況や同期会等の活動の様子を事務局までお知らせください。桜水会のホームページ(HP)は、海洋生物資源科学科HP(http://hp.brs.nihon-u.ac.jp/~kaiyo/wp/o-sui_description/)内に併設されています。同ウェブ上で連絡先等の変更手続きができますのでご活用ください。桜水会では、会報の原則オンライン化に向け、総会の開催通知および会報の発行通知時に申し込みいただくことになりました(2021年3月末締切)。また、今後、ハガキの送付からメール等の送付に移行するため、メールアドレスの登録をお願い致します。詳細は、桜水会HPをご覧ください。

(糸井 史朗)

工 学 会

生物環境工学科

連絡先：生物生産システム工学研究室
0466-84-3795 梅田 大樹
E-mail: umeda.hiroki@nihon-u.ac.jp

会員の動向

正会員数は、平成29年度卒業生134名を加え、平成30年3月現在で7536名となりました。現役学生である準会員は、1年生134名(男110・女24)、2年生132名(男108・女24)、3年生161名(男128・女33)、4年生154名(男118・女36)で、合計581名(男464・女117)となっています。したがって、現役学生の男女比はほぼ4:1という状況になっています。

学科設立55周年 記念祝賀会の開催

生物環境工学科は昭和34年に農学科内に農業工学専修が発足し、昭和37年に農業工学専修の発展的解消により農業工学科が設立され、平成8年に学部改組に伴って現在の名称となりました。このような歴史を経て、生物環境工学科は平成29年に設立から55年を迎え迎えることになりました。そこで、学科設立55周年を機に校友一同の親睦を一層深めるべく、平成29年12月2日(土)に農業工学科・生物環境工学科設立55周年記念祝賀会を生物資源科学部食堂棟3階(NUBSホール)にて開催しました。当日は40名超の卒業生を始め、8名の教員OB・OGにもご参加頂き、在学生や現教員を合わせて95名の参加者となりました。およそ2時間という短い時間ではありましたが、それぞれ思い出を交わし有意義な時間を過ごすことができました。



設立55周年記念祝賀会での集合写真

教員人事

平成30年3月末日をもって石川重雄先生が定年退職されました。石川先生は昭和56年に当時農獣医学部の助手として赴任されてから37年間、学科のみならず大学全体のためにご尽力されました。また、平成30年度より水資源環境工学研究室の長坂貞郎先生が教授に、山崎高洋先生が専任講師に昇格されました。今後ますますのご活躍を祈念いたします。

これにより、本年度の研究室体制は以下となります。

水資源環境工学研究室(長坂貞郎教授、山崎高洋専任講師)

地域環境保全学研究室(笹田勝寛准教授、對馬孝治専任講師)

地球環境・資源リモートセンシング研究室(串田圭司教授、宮坂加理助手)

動物生態環境学研究室(三谷奈保専任講師)

建築・地域共生デザイン研究室(栗原伸治教授、藤沢直樹専任講師、糸長浩司特任教授)

環境土木施設工学研究室(川本治教授、齊藤丈士准教授)

生物生産流通施設学研究室(佐瀬勘紀教授、都甲洙教授(研究所))

生物生産システム工学研究室(宮本眞吾教授、川越義則准教授、梅田大樹専任講師)

バイオメカトロニクス研究室(内ヶ崎万蔵准教授)

学科事務局(江橋沙稀実習助手、中嶋綾香実習助手)

学科への支援

工学会では、準会員である現役学生に向けた支援を毎年行っています。平成29年度の卒業生には、卒業記念品(ボールペン)の贈呈、謝恩会(卒業記念パーティ)開催に対する補助、及び卒業生表彰(工学会長賞)を行いました。謝恩会は平成30年3月23日に横浜ロイヤルパークホテルで開催され、本吉克行さん、須藤隆仁さん、村松慧哉さんの3名が表彰を受けました。また、本年度の5月19

日に開催されたスポーツフェスタでは、当日に学科1年生が着用するTシャツ代金の補助を行いました。さらに、学科2年生が測量学実習で着用する実習服代金の一部補助も行いました。



謝恩会での工学会長賞授与式の一コマ



平成30年度の学科Tシャツ

事務局より

学科のホームページ(<http://hp.brs.nihon-u.ac.jp/~bae/>)がリニューアルされました。学科体制のほか、様々なイベントについて順次掲載されていますので、お時間がございましたら是非一度ご覧ください。

また、工学会ではイベントや各種案内を紙媒体で行っていましたが、今後はweb媒体に移行します。なお、昨年度までweb媒体への移行に関するアンケートを行いましたが、ご回答時に紙媒体での告知をご希望されました方には、引き続き紙媒体にてご案内します。連絡先の変更がございましたら工学会ホームページ(<http://www.bae-kougakukai.org/>)よりお願いいたします。

(梅田 大樹)

FT会

食品生命学科

連絡先：食品生命工学研究室
0466-84-3979 事務局長 陶 慧
E-mail: tao.kei@nihon-u.ac.jp

FT会活動報告

【FT会理事会および総会の開催】

FT会理事会が平成30年4月9日に、総会は平成30年6月9日に本学湘南キャンパスにおいて開催されました。総会では平成29年度事業報告および会計収支決算が承認されました。さらに、平成30年度事業計画案および会計収支予算についても承認されました。

また、平成29年10月29日の学部祭開催時期にホームカミングデーとして卒業生が集う試みを初めて実施しました。

【準会員（在学生）への活動】

FT会では、準会員の活動援助として、4年生へは、研究室対抗スポーツ大会懇親会の補助と卒業記念品の贈呈を行いました。4年生へ授与するFT会会長賞には、小島 豪さんと藤倉諒子さんが受賞されました。1年生へは、フレッシュマンセミナーの補助と学部スポーツフェスタでの飲料を提供しました。スポーツフェスタでは、一致団結して頑張りましたが、惜しく

も総合5位という結果でした。また、オープンキャンパスの補助および全学生に対して資格試験受験料の補助も例年どおり実施しました。



研究室対抗球技大会



スポーツフェスタ集合写真

学科の近況

【学科人事】

平成29年度に食品生命学科では、以下の人事が行われました。

○昇格

津田真人（食品生命機能学研究室）先生が平成30年4月1日に専任講師に昇格されました。今後、ますますのご活躍が期待されます。

○移動

小林りか先生が食品創成科学研究室から食品資源利用学研究室に移動されました。

平成30年度の食品生命学科は、以下の構成となっています。

○12号館5階

食品衛生学研究室
（荻原博和教授・河原井武人専任講師・京井大輔助手）
食品創成科学研究室
（阿部申准教授）
食品資源利用学研究室
（鳥居恭好准教授）
食品生命工学研究室
（今井正直教授・陶慧専任講師）
学科事務室
（鈴木友里実習助手・井上梢実習助手）

○12号館6階

食品資源利用学研究室
（竹永章生教授・成澤直規専任講師・小林りか助手）
食品生命機能学研究室
（細野朗教授・津田真人専任講師）
食品栄養学研究室
（山形一雄教授・大畑素子専任講師）
食品分析学研究室
（松藤寛教授・大槻崇専任講師）

事務局より

FT会のホームページ (<http://ftkai.net/>) では、各種イベント情報の閲覧や各種変更届ができます。また、FT会では、同窓会・同期会の開催に際し、一部援助もしております。ご不明な点は、ホームページからお問い合わせください。

（阿部 申）



卒業式集合写真

拓友会

国際地域開発学科

連絡先：熱帯資源作物研究室

0466-84-3468 事務局長 倉内 伸幸

E-mail: kurauchi@brs.nihon-u.ac.jp

平成 30 年度幹事会および 総会の報告

平成 30 年 8 月 5 日に平成 30 年度拓友会幹事会および総会が開催されました。第 1 号議案として、平成 29 年度活動報告ならびに決算報告、第 2 号議案として、平成 30 年度事業計画案ならびに予算案が審議され、事務局提出案が承認されました。

平成 29 年度拓友賞授与

平成 29 年度の拓友賞は、桃原理沙さんが国際地域開発学科より推薦され、平成 30 年 3 月 25 日に実施された卒業証書伝達式の席上、表彰状ならびに副賞が授与されました。

平成 30 年度 学科海外研修旅行開催

学科主催の海外研修旅行は、8 月から 9 月にかけてアグリビジネス（韓国）コース朽木先生、李先生（参加学生 5 名）、農村（タイ）コース麻生先生、園江先生（参加学生 7 名）、農村（タンザニア）コース加藤先生、田近（参加学生 8 名）が開催されました。



ミャンマーインレー湖にて

卒業生の進路状況について

平成 29 年度卒業生の進路状況は、就職 136 名、進学 10 名、その他 13 名、就活中 3 名となり、就職希望者（139 名）に対する就職率は 97.8% となりました。

青年海外協力隊派遣状況

本学大学院在学中の部大輝君が、本学部が青年海外協力隊事務局と交わした大学連携でウガンダに昨年 7 月より派遣されています。

【派遣中】

平成 26 年卒

重吉倫太郎（フィジー：野菜栽培）

平成 27 年卒

部 大輝（ウガンダ：農林統計）

【帰国】

平成 25 年卒

斉藤雄介（ウガンダ：稲作）

が約 2 年間の活動を終えて帰国しました。今後の活躍を期待します。

【派遣予定】

平成 30 年卒木島史暁（ウガンダ：稲作）、平成 30 年卒小林さな子（ザンビア：野菜栽培）、平成 30 年卒子田利理伊（ベナン：野菜栽培）、平成 27 年卒勝亦保奈美（ルワンダ：稲作）

行事

新 1 年次歓迎オリエンテーションが、4 月 14 日（土）に、片瀬東浜海水浴場にて行われました。ビーチクリーンを主な活動として、回収したゴミの分類・記録などを行い、課題意識を高め、また協働作業を通じた親睦を深めました。

5 月 19 日（土）に「スポーツフェスタ 2018」が行われました。

在校生の近況

鈴木稔弘（国際 4 年）が、ボクシング関東連盟三賞の技能賞とボクシングマガジンが贈る階級賞（LW 級）を受賞しました。

平成 29 年 6 月 14 日現在、1 年生 137 名（男子 95 名・女子 42 名）、2 年生 132 名（男子 84 名・女子 48 名）、3 年生 153 名（男子 112 名・女子 41 名）、4 年生 146 名（男子 96 名・女子 50 名）の合計 608 名（男子 408 名・女子 200 名）が在籍しています。（山下 哲平）



新 1 年生歓迎オリエンテーション 片瀬江ノ島ビーチクリーン



スポーツフェスタ 綱引きの様子

応用生物科学科校友会

応用生物科学科

連絡先：生体分子学研究室
0466-84-3353 事務局長 明石 智義
E-mail: akashi.tomoyoshi@nihon-u.ac.jp

学科の近況

【在学生と卒業生】

応用生物科学科の在籍学生数は541名、学年別では1年生134名(男83名、女51名)、2年生123名(男79名、女44名)、3年生143名(男79名、女64名)、4年生141名(男70名、女71名)となっています。昨年度は145名の学生が卒業し、社会に巣立っていきました。卒業生のご活躍を期待します。



卒業式での学科主任の挨拶

【学科教員の動き】

平成30年4月には、分子免疫生物学研究室の高橋恭子先生が教授に昇格されました。今後さらなるご自身の研究の発展に加え、学生の教育へのお力添えをお願い致します。また実習助手として学科事務、学生実習にご尽力戴いた太田早紀さんが退職しました。後任として本年度から市川真衣さんが実習助手として採用されました。学科のホームページをリニューアルしました。研究室体制や各教員の紹介等はホームページをご覧ください <<https://www.abs-brs.com>>



市川 真衣 実習助手

【ABS 講演会】

応用生物科学科では、教職員及び学生が自由な雰囲気での議論、意見交換をするためABS Evening Lectureを開催しています。これまでに新任の先生方にご自身の研究を紹介して頂いていますが、平成29年9月には中西祐輔先生に「炎症性腸疾患発症機構と治療戦略に関する基礎研究」というタイトルで発表して頂きました。学部学生及び大学院生が多数参加し盛況でした。

学科への支援事業

応用生物科学科校友会では準会員へ向けて、新入生歓迎会、スポーツフェスタ、オープンキャンパス、卒業記念品などの支援を行っています。

平成30年4月に、新入生の相互交流や教職員とのコミュニケーションを図る目的で、新入生歓迎会を行いました。学科の教職員と100名以上の新入生が参加しました。皆、楽しく懇談し親睦を深めていました。ボランティアの4年生や大学院生も参加し、講義や学生実験、さらに研究室の様子などを紹介していました。同じく5月にはスポーツフェスタが開催され、学生、教員ともに統一されたTシャツを着て競技や応援を行いました。

本年度もオープンキャンパスが開催されました。6月には中西祐輔先生による模擬講義が行われました(体を守る免疫の仕組み ～癌との戦い～)。研究室の展示では、学生、大学院生、教員が研究内容をわかりやすく紹介し、さらに模擬実験等も開催されたいへん好評でした。また「特別講義」では、学生の将来と就職についての意識を高めてもらう為、各分野で活躍されている学科の卒業生(7名)に来て頂きオムニバス形式で講義をして頂きました。



新入生歓迎会



教員と学生による進学相談



卒業生をお招きした特別講義の授業風景



スポーツフェスタ

事務局より

事務局では会員の皆様からのご意見、ご要望、ご提案をお待ち致しています。ご一報下さいますよう、お願い致します。

(明石 智義)

短期大学部湘南校友会

短期大学部生物資源学科

連絡先：生物資源科学部 一般教養 国語・国文学研究室③
0466-84-3749 事務局長 蒲原 義明
E-mail: kamohara.yoshiaki@nihon-u.ac.jp

短期大学部湘南校友会が準分会に

本会の母体となる短期大学部生物資源学科は、2016年3月に幕を閉じ、本会の位置づけが検討されてきましたが、2017年度の生物資源科学部校友会総会において、本会は準分会という立場になることが決定しました。正式な分会ではありませんが、六会の地を巣立った卒業生の一集団として、今後も生物資源科学部校友会をはじめ母校に様々な貢献を続けていきたいと考えています。

2018年度校友会総会・懇親会の開催

2018年度の総会・懇親会は、7月14日に、生物資源科学部において開催されました。今回は、生物資源科学部校友会が七〇周年にあたることから、同日開催としました。古い校友から、現在学部編入している学生に至るまで、広い年代の方々にご参集いただき、あちらこちらで料理に舌鼓を打ちながら、近況報告や昔話に花を咲かせた、楽しいひとときを過ごすことができました。

(蒲原 義明)



元短大教員や現役学部学生との懇談。



80歳を越えた皆さんも元気に参加。

支部だより

宮城県支部の近況

連絡先 〒981-3212 仙台市泉区長命ヶ丘3-30-14
支部長 鎌田 雅敬 事務局長 早坂 睦雄
TEL.022-378-6592 FAX.022-378-6592
携帯電話：080-5579-5456
E-mail: mutsuo-hayasaka.1506@jcom.zaq.ne.jp

■ 6月30日(土) 平成30年度総会・懇親会を「仙台エスカイヤクラブ」で開催。総会には会員11名、来賓3名出席で審議されました。議事として平成29年度収支決算及び平成30年度事業計画・収支予算について全て了承されました。特に仙山交流会としてH30年9月8日に仙台市内全域で開催される「定禅寺ストリートジャズフェスティバル」の散策と懇親会を宮城県支部として開催を予定しています。



日本大学生物資源科学部校友会宮城県支部総会記念写真

■平成30年度の主な会議・行事等日程
* 6月30日：H30年度総会・懇親会を市内「仙台エスカイヤクラブ」で開催。
* 7月14日：学部校友会総会・懇親会：藤沢市・学部UNホールAにて開催予定。
* 7月25日：学部校友会宮城県支部総会・懇親会を仙台市内で開催。
* 9月8日：仙山交流会として定禅寺ストリートジャズフェスティバルを散策し、懇親会を仙台市内「仙台エスカイヤクラブ」で予定。
* 10月28日：全日本大学女子(杜の都) 駅伝出場時(9月30日決定)はTV全国放送、県校友会全学部で全区間横断幕・応援旗にて選手鼓舞沿道応援を実施。
* 12月27日：役員会・忘年会を仙台市内で開催。



日本大学校友会宮城県支部深松勇支部長挨拶



日本大学生物資源科学部校友会宮城県支部鎌田雅敬支部長説明

■会員の状況(平成30年現在39名)
※卒業生・農学校友会1名・紫友会1名・角笛会2名・満喜葉会5名・いもずる会5名・あすなろ会5名・桜水会5名・工学会7名・FT会4名・拓友会3名・むつあい会1名・賛助会員：提携校・東北高等学校
(文責者 早坂 睦雄)

山形県支部の近況

連絡先 〒990-2433 山形市鳥居ヶ丘4-55
日本大学山形高等学校 小嶋 佑治
TEL.023-641-6631 FAX.023-641-6634
E-mail: kozima.yuji@nihon-u.ac.jp

第26回生物資源科学部校友会山形支部の総会は、平成30年2月17日、山形市パレスグランデールを会場に、会員17名の参加と、本学部校友会本部より横川 屹(よこかわたかし) 副会長、当校友会宮城県支部より鎌田雅敬(かまたまさゆき) 支部長など12名の来賓者のご臨席を頂き開催されました。

総会では、武田昇(国際地域開発学科・平3年卒) 議長により、平成29年度の事業報告と会計決算報告が承認され、平成30年度事業計画と会計予算が決定されるとともに、2期6年の長期に渡り支部長を務められた植松恒美氏(生命科学科・昭44年卒)を中心とする役員体制から、新支部長を池田卓郎(生命科学科・昭44年卒)氏とする新役員体制が今後の会発展を担い決定されました。

議事協議終了後は、会員皆が学生時代に限りアカデミックな雰囲気の中、平成4年から続き毎年恒例となっている、本学部教授による記念講演が行われました。最新の研究内容や時節に合った内容が講演することから、会員皆が楽しみにしており、毎年「もっと多くの方々が聞ければいいのに」との意見が出されます。今回は、生物資源科学部食品ビジネス学科教授下渡敏治（しもわたるとしはる）先生より「アベノミクス農政と農林水産物・食品の輸出が地域活性化に果たす役割」と題し、ご講演いただきました。会員の中には講演内容に直面する職域の者もあり、熱心に質疑応答がなされました。

講演の後は、当学部校友会本部副会長の横川氏より学生生活支援などの校友会活動の近況報告等がなされ、会員各位の会費が有効に活用されていることを報告いただきました。

総会終了後は懇親会です。皆で声高らかに校歌斉唱をし、学科ごとに一人ひとりの近況報告などをし、学生時代の思い出話などに花が咲きました。

生物資源科学部校友会山形支部では、4年前から宮城県支部と協同で「仙山交流会」と名打ち、山形県と宮城県とで交互に交流事業を開催し、会員同士の親睦を図っております。一人でも多くの卒業生に参加していただければと考えております。（執筆者 鈴木 伸広）



山形県支部 第26回総会



下渡敏治教授の記念講演

神奈川県支部の近況

連絡先

〒252-0880 神奈川県藤沢市亀井野 1866
日本大学生物資源科学部 動物資源科学科 ミルク科学研究室(6号館4階)
TEL: 0466-84-3662 (増田)
E-mail: t-masuda@brs.nihon-u.ac.jp

本会は生物資源科学部校友会神奈川県支部として10周年を越え、学部卒業生と有志のメンバーで農業活動を中心に活動しています。学部からご理解を頂き、一坪農園として学部農場の一部を無償提供されています。この制度は高齢を迎える校友一人ひとりにとって大変すばらしい学部事業の一つとして感謝しています。

昨年度は土曜日の10時から正午まで、空気の良い畑で年間を通して農作業を50回実施延べ332人の参加実績でした。年間を通して土壌耕耘、種まき、栽培管理、草取り、水まきといった農作業を行っています。また菊づくりも行なっています。収穫時には採りたてのホウレンソウ、ハクサイ、ネギ、タマネギ、モロヘイヤ、ミョウガ、カボチャ、ピーマン、ミニトマト、ナス、エダマメ、トウモロコシ、フキ、ダイコン、ジャガイモ、サトイモなどのお土産をたっぷり持ち帰りできる楽しみが待っています。

養蜂に関しては、ミツバチの巣箱を葉山に移転し、地元の人の協力も得て75kgの蜂蜜を生産「湘南の百花蜜」として販売しています。

その他の活動として、農場内で他の分会とのバーベキュー、校友関連の協力で本年7月も横浜クルージング納涼会、また来年の正月には、恒例の「箱根駅伝」の3区・8区を各分会と合同で藤沢市の遊行寺近くに陣取って応援する予定です。

本会は卒業生に限らず、農業活動に興味のある人には門戸を広く開けて地元とのつながりも大切にしていきたいと願い、活動しています。

LINE「神奈川県支部野菜G」で情報共有しています。ご興味のある方はお気軽にお問い合わせ下さい。

（事務局長 稗貫 峻）



神奈川県支部懇親会にて(2018年5月19日)



パレイシヨの植付準備(2月)



菊の鉢替え(5月下旬)



カボチャ畑で一休み(8月下旬)

高知県支部の近況

連絡先 〒785-0610 高知県高岡郡梼原町梼原 1173-2
高知県支部事務局 来米 豊史
TEL.0889-65-0818
E-mail: kurume@flute.ocn.ne.jp

今年も宮尾登美子原作「陽暉楼」の舞台となりました料亭得月楼で8月25日、第30回高知県支部総会及び懇親会を開催しました。

学部校友会副会長の長島武志様をご来賓として現役の学生1名を含む総勢22名のご参加を頂き懇親会で

は3名の現役学生も飛び入り参加を頂きました。

今年校友会のご子息2名が日大生となっており、校友会一同から万年筆の記念品を贈呈させて頂きました。

総会、懇親会では昨今アメフト部の問題等、諸々の事柄がありましたので必然そういった話題にもなりましたが、一言で言えば、残念です！7月14日に藤沢で開催された総会にも前川高知県支部長と共に参加させて頂きましたが、学部からの出席は誰も無し、コメントも無し、懇親会は自粛する旨のお話しがあったようですが、校友会に対しても沈黙の状態でありま

した。校友会の方々もこの場では詳細の説明を求めたりその必要も考えてはなかったと思います、せめて全国から集まった校友会の方々に対しては、“今後校友会も誇れる日大にするべく努力します”なりの一言があっても然るべきでなかったかと残念でした。支部総会でもお話しさせて頂きましたが一連の事柄を沈静化させてはならないと思います。ぜひ“日大を今一度洗濯致し申し候”という志をもった理事、教職員、その他関係者の方々、日大維新を成し遂げて頂いて、新しい日大の夜明けが来ることを切望致しております。

(高知県支部 事務局長 来米 豊史)



高知県支部総会



現役学生も交えての懇親会

「東京オリンピックが開催される 2020 年、カッター部は 60 歳になります。」

カッターは旧海軍の軍艦に積載されている救命艇でしたが現在は訓練に使われるだけで、現在の船舶には効率の良い救命装置が用意されています。タイタニック号の沈没事故の経験から乗船者数以上の救命装置を備えて置く事が義務付けられたのです。

カッターを所有するのは船に関わる学校ですからカッターを知らない方は多いと思います。我が部はOBの最高齢 80 歳、学部の中では古参の部でしょう。農獣医学部時代（現生物資源科学部）に横須賀臨海実験所（馬堀海岸）が練習の拠点でした。前面海域は浦賀水道、今も昔も船の往来が頻繁です。実験所の廃止に伴い練習の拠点を平塚市相模川河口に移し現在も相模川で漕艇練習しています。長い部の歴史の中で存続が危うくなった時代

もありました。クルーは正式には 14 名、レースで漕ぎ切れるなら人数不足でも参加出来ますが、それすら出来ない部員不足に陥りました。その苦い経験から部員勧誘は手を抜かない様、カッターを知らない新入生の為に模型を展示して勧誘をさせています。現在、男女合わせて 45 名の大所帯となり、漕ぎ手に女性 3 名がいます、OBとしては嬉しい限りです。OB会の活動も活発で、現役学生との交流も含めて部員に操船、係留、ロープワーク、艇や艇庫の補修管理等、助言や支援をしています。在校生、OB・OGの皆さん、相模川でカッターを漕いでいるのを見かけたら是非応援をお願いします。

記：原 博隆（昭和 44 年卒）



(写真はカッター部のレース時の記録より)

日本大学生物資源科学部校友会 役員名簿

(平成 30 年 4 月1日現在)

区 分	氏 名	所 属 分 会	学 科 名
会 長	内 田 俊 太 郎	拓 友 会	国 際 地 域 開 発 学 科
副 会 長	長 島 武 志	富 嶽 会	生 命 農 学 科
〃	山 本 捷	満 喜 葉 会	動 物 資 源 科 学 科
〃	横 川 屹	い も づ る 会	食 品 ビ ジ ネ ス 学 科
〃	関 村 具 由	F T 会	食 品 生 命 学 科
〃	近 藤 明 宏	応 用 生 物 科 学 科 校 友 会	応 用 生 物 科 学 科
幹 事 長	津 曲 茂 久	角 笛 会	獣 医 学 科
幹 事	佐 々 木 透	富 嶽 会	生 命 農 学 科
〃	腰 岡 政 二	〃	〃
〃	高 橋 善 人	紫 友 会	生 命 化 学 科
〃	藤 岡 智 子	〃	〃
〃	荻 原 淳	〃	〃
〃	鳥 海 弘	角 笛 会	獣 医 学 科
〃	井 上 亮 一	〃	〃
〃	洪 谷 一 久	〃	〃
〃	小 杉 幸 彦	満 喜 葉 会	動 物 資 源 科 学 科
〃	小 泉 聖 一	〃	〃
〃	藤 井 正 氣	い も づ る 会	食 品 ビ ジ ネ ス 学 科
〃	大 石 敦 志	〃	〃
〃	宮 島 吉 夫	あ す な ろ 会	森 林 資 源 科 学 科
〃	東 郷 聖 史	〃	〃
〃	鍛 代 邦 夫	〃	〃
〃	橋 ヶ 迫 寛 隆	桜 水 会	海 洋 生 物 資 源 科 学 科
〃	原 博 隆 司	〃	〃
〃	黒 澤 慶 司	〃	〃
〃	酒 川 和 男	工 学 会	生 物 環 境 工 学 科
〃	工 藤 謙 一	〃	〃
〃	笹 田 勝 寛	〃	〃
〃	廣 川 隆 一	F T 会	食 品 生 命 学 科
〃	陶 慧 操	〃	〃
〃	小 谷 田 操	拓 友 会	国 際 地 域 開 発 学 科
〃	倉 内 伸 幸	〃	〃
〃	土 屋 徳 司	応 用 生 物 科 学 科 校 友 会	応 用 生 物 科 学 科
〃	明 石 智 義	〃	〃
監 査 役	長 谷 川 功	紫 友 会	生 命 化 学 科
〃	渡 部 敏	角 笛 会	獣 医 学 科
〃	木 島 実	い も づ る 会	食 品 ビ ジ ネ ス 学 科

分会会報編集委員名簿

(平成 30 年 4 月1日現在)

氏 名	所 属 分 会
大 澤 啓 志	富 嶽 会
赤 尾 真 堅	紫 友 会
岡 林 裕	角 笛 会
山 室 裕	満 喜 葉 会
大 石 敦 志	い も づ る 会
阿 部 和 時	あ す な ろ 会
糸 井 史 朗	桜 水 会
笹 田 勝 寛	工 学 会
阿 部 申	F T 会
山 下 哲 平	拓 友 会
明 石 智 義	応 用 生 物 科 学 科 校 友 会

校友会からのお知らせ

1 平成 29 年度卒業生及び平成 30 年度新入生について

平成 29 年度の卒業生は、大学 1,603 名及び大学院 89 名で合計 1,692 名でした。平成 30 年度の新入生は、大学 1,600 名及び大学院 103 名で合計 1,703 名でした。この結果、平成 30 年 4 月 1 日現在の生物資源科学部の学生数は、大学 6,916 名及び大学院 217 名で学生総数は、7,133 名となっております。なお、男女別では、男子学生 4,048 名 (56.8%)、女子学生 3,085 名 (43.2%) です。

2 平成 30 年度藤桜(学部) 祭について

平成 30 年度の藤桜祭は、10 月 27 日(土) 及び 28 日(日) の両日学内で開催されます。

校友会では、休憩の場として事務局会議室(2 号館 2 階)に「OB・OG の部屋」を準備いたしますので、校友の皆さんのご来場をお待ちしております。

3 2019 年度の通常総会及び懇親会の開催について

(1) 通常総会

ア 日 時：2019 年 7 月 13 日(土) 午後 2 時から

イ 場 所：日本大学生物資源科学部 2 号館 1 階 211 講義室

(2) 懇親会

ア 日 時：同日 午後 4 時から

イ 場 所：日本大学生物資源科学部 食堂棟 3 階

なお、時間、場所等は変更することがありますので、予めご了承ください。

4 学部校友会創立 70 周年記念誌の発行について

平成 30 年は、昭和 23 年 10 月農学部校友会が誕生して 70 年目の年に当たります。

これを機に記念誌を刊行することとしました。刊行時期は、来年の 7 月頃を予定しております。

配布先は学部、校友会本部、他学部校友会等とし、刊行部数は必要最小限とすることから、ご希望の方は誠に申し訳ありませんが有料とさせていただきますので、予めご理解願います。

刊行時期、値段、申込み方法等は、具体的になりましたら学部校友会のホームページでお知らせします。

◎ 生物資源科学部には各学科毎に校友会があり、会報は、各学科の会報編集委員及び県支部の会報執筆担当者の方々のご協力を得て学部校友会の広報委員会が作成しております。

したがって、掲載記事の内容等についてのご照会、あるいは住所等の変更事項のご連絡につきましては、各学科校友会の記事掲載ページの分会名の下に記載してあります研究室及び県支部連絡先までお願いします。

なお、会員の方への発送は各学科校友会が行っておりますので、今後の会報の要不要につきましても各学科校友会へご連絡願います。

また、学部校友会事務局(広報委員会)に関するお問い合わせは下記までお願いします。

(1) 住 所：〒252-0880 神奈川県藤沢市亀井野 1866

(2) TEL：0466-84-3799

(3) FAX：0466-84-3531

(4) E-mail：koyukai@brs.nihon-u.ac.jp

※表紙の写真は学部写真発見隊(写真サークル)の提供です。

発行所

日本大学生物資源科学部 校友会 〒252-0880 神奈川県藤沢市亀井野 1866

TEL:0466-84-3799 FAX:0466-84-3531 E-mail:koyukai@brs.nihon-u.ac.jp

印刷所：(株)デイ・エム・ピー 〒162-0041 東京都新宿区早稲田鶴巻町 561 TEL：03-5292-6800(代) FAX：03-5292-6871